

# 「工具屋」のタイビジネス ～株式会社スギモトの挑戦～

texted by 滋賀銀行 バンコク駐在員事務所長 河村 正弘

株式会社スギモトは兵庫県尼崎市に本社を置く機械工具商社。2012年9月3日、日系製造業の進出が著しいタイにSugimoto Asia(Thailand)Co.,Ltd.を設立した。日本国内と同様のサービスで製造業を支援する同社のタイ事業をレポートする。

## タイでの機械工具業界

1985年のプラザ合意以降、日本の製造業はタイで生産拠点を拡大してきた。自動車産業では2,000社超がタイに進出し、タイを自動車生産台数世界第10位へ押し上げる原動力となっている。また、日本の企業が高いシェアをもつHDD(ハードディスク駆動装置)やデジタルカメラでも、タイは世界有数の生産地となっている。そして近年は製造業だけでなく、機械工具の販売、設備メンテナンス、製品検査等を行う企業まで進出し始めている。株式会社スギモトも製造業をサポートするため、工具・保全部品などの消耗品から機械設備まで、企

業の生産活動に必要な部材をタイムリーに供給している。

### お客さまの近くで

同社の特徴は、取引先の生産現場へ訪問を重ねる「徹底した御用聞き」を実践していることだ。1966年の創業以来、製造業が集積する地域に積極的に店舗を展開、近畿を中心に18営業拠点を有する。取引先への訪問頻度を高めて信頼関係を築き、部材の情報を事前に収集する。多店舗展開は取引先に足繁く訪問するため、地道な営業活動が同社の強みとなっている。

杉本直広社長は今でも、自社のことを「工具屋」と呼ぶ。そして社員には倫

理観や商道德の大切さを説き、「明るく、前向き、謙虚」な人材育成に取り組んでいる。

### タイ進出までの軌跡

取引先が海外へ製造拠点を移す中、取引先の近くに存在するという経営方針の下、同社は海外進出を決定。2011年4月、本社内に海外準備室を設置した。その責任者に抜擢されたのが駒井登志夫MDだ。明るい笑顔で周囲を和やかにする同社の社員像そのままの人柄で、2000年に彦根営業所に入社、05年には若手ながら大垣営業所の開設で先頭に立つなど営業第一線で活躍してきた。



駒井MD(左)とタイの現地スタッフたち。「徹底した御用聞き」が浸透しつつある

海外準備室開設から約1年間、調査のため駒井MDは東南アジアを中心に取引先の海外現地法人を訪問。海外でのビジネス経験もなく、語学も得意ではなかった駒井MDだが、80社以上の製造現場を見て、現場責任者の声を聞いて回った。

その中で、タイは日本の中小企業が数多く進出し産業集積がなされている一方で、人件費が上昇しており、省力化や自動化の需要が高いと判断。同社のサービスに対する期待度も十分にあると確信し、進出を決めた。

### 「Sugimoto Asia(Thailand) Co.,Ltd.」の展開

外国人事業法の規制など幾多の問題を乗り越え、12年7月に法人設立登記が完了した。そして同年9月、バンコクに事務所を構え、事業を開始した。

そこで直面したのは「人」の問題だ。失業率が1%を下回るタイでは、スタッフの確保と育成が難しい。「用事があれば取

引先のほうから連絡してくるはずだ」という感覚が強く、現地スタッフは当初、「徹底した御用聞き」の重要性を理解できなかった。ただ、訪問活動が受注につながっていくことで、最近はその基本理念がスタッフに浸透しつつある。取引先が日系企業であっても生産現場はローカル化しており、購買担当はタイ人である。現地スタッフを優秀な「工具屋」として育成できるかが今後の大きな課題である。

### 当行のタイ・ビジネスサポートを活用

当行バンコク駐在員事務所では、同社のタイ現地法人設立に際し、情報提供を行うと同時に地場銀行での口座開設等の手続きをサポート。また、商談会に参加し新規取引先を開拓されるなど当行の海外サービスを活用いただいている。日本のものづくりを国内外で支える同社に対し、当行も国内外連携して一層のサポートをしていきたい。



取引先の要望にすぐに応えられるよう、さまざまな部材をストック



株式会社スギモトのタイ事業をけん引する駒井MD

#### 会社概要

##### 株式会社スギモト

- 所在地/兵庫県尼崎市杭瀬北新町4丁目8番5号
- 代表者/代表取締役社長 杉本 直広
- 設立/1966年12月
- 事業内容/省力化機械、機械工具、工作機械、管工機材の販売

##### Sugimoto Asia(Thailand) Co., Ltd.

- 所在地/399 Interchange Building 25th Fl., Unit 6, Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok
- 代表者/Managing Director 駒井 登志夫
- 設立/2012年9月
- 事業内容/省力化機械、機械工具、工作機械、管工機材の販売

## スポーツ産業の変革期

中国のスポーツといえば、卓球やバドミントンを想像する人が多いのではないだろうか。事実、両競技は中国の国技として広く愛されている。

しかし、80後(バーリンホウ)、90後(ジョウリンホウ)と呼ばれる80年代、90年代生まれの若者は、バスケットボールやサッカー、テニスに夢中だ。特に武漢市は、2011年の全仏オープン女子シングルスで優勝した李娜(リー・ナ)が大学卒業まで育った町であり、テニス人気が非常に高い。

もう一つ、人気が沸騰しているのがアウトドアスポーツだ。ストレスが増加している現代では、休日を家族や友人と自然の中で過ごしリラックスしたいと考える国民が増えている。その結果、アウトドアスポーツ産業は急激な成長を見せている。

アウトドア用品の売上成長率は群を抜いている。あるスポーツショップでは、テントとバーベキューコンロをディスプレイしただけで来店客数が大幅に増加し、売上が前年同月の2倍になったという。また、今年2月に北京で開かれたISPO(国際スポーツ用品専門展覧会)では、中国のアウトドアレジャー産業の今年度売上高は前年比40%増を予想している。世界有数のスポーツメーカー・アディダスは、2012年度の中国全体での売上が前年比15%増加、今年からアウトドア部門を強化しさらなるシェア拡大に乗り出している。

中国のGDPは過去30年間で20倍以上にもなり、経済成長と同時に生活環境やライフスタイルまで大きく変化した。80後、90後の存在は経済発展の象徴であり、彼らの潜在ニーズを引き出すことが、中国でモノを売るカギとなる。

(しがぎんアジア月報5月号より 武漢研修生 室内)

